

第六章 フロリン支部

フロリンと同胞

フロリンは櫻府の南五哩にして、南太平洋鐵道に沿ひ、風に邦人の葦村として知られてゐる。

一八九八年（明治卅一年）廣島縣人中川某此地に農園を経営したのが邦人最初の移住農家であつた。後、和歌山縣人阪上某白人と契約して農作に従事し、斯くて一九〇〇年、河本和吉等葦園を経営するに至りて、漸次邦人の來住するもの増加し、始め葦のみを栽培したるも、供給過剰となりて市價の暴落を招きし爲め、葡萄の栽培に従事する者あるに至つた。夫れより數年後の一九〇九年末には葦園の借地料普通一英町參拾弗乃至四拾弗にして、葡萄植付地は大低一英町參百弗の地價を呼んだ。而して邦人の土地所有者三十七人、其所有總面積九百二十七英町、現金借地者九十九人、此面積千八百二十九英町、歩合農作者十八人、此面積二百五十六英町である。

農園の發達斯くの如くなるに拘らず、櫻府に近きを以て、市街地方の商舖は割合に發展せず、只停車場附近は邦人經營の商店、土地賣買周旋業、洋食店、理髮店、撞球場、湯屋、鍛冶屋、豆腐屋等各一軒宛あるだけであつた。一九〇一年（明治卅四年）櫻府勸業社より一商社を當地に開きたる事ありしが葦業の失敗に歸したるより、此商店は其影響を蒙りて破産し、其後一九〇三年、谷川玉藏は撞球場及び理髮店を開業、一九〇七年には廣島縣人河本和吉、河本商店を經營するに至りて漸く邦人商舖發展の基礎を成すに至り、後、谷川玉藏また大に發展し、同時に驛頭に商店を建築して和洋雜貨商を開店するに及んで、逐時發展し來り、今日の隆盛なる商況を呈するに至つた。現在玉川商店の外新進隆盛なる秋山道

春の和洋雜貨店を始め、加藤商店、落合、高橋運送店、岡本、津崎グラージ、川村、鹽濱兩産院、中山、野田、佐々木、森田等の各種商店ともに殷賑なる商況を呈して居る。在留戸數百五十數戸あり、隣村大正區と近接し居りて、その總數壹千に達せんとして居る。

劍道支部の設立

昭和六年の暮、中村藤吉教士が隣村大正區の講習を終了すると同時に、谷川玉藏、秋山道春率先して同教士を招聘し、前後二回の講習を受けて、劍士百七十餘名の劍士を養成すると同時に、フロリン支部を設立するに至つた。今日當支部は殆んど龍頭蛇尾の結果に終り、劍士は隣市大正區と合同の上、巡迴師範の教授を受けつゝある。

一九三二年二月七日、大正區支部主催になる中村教士歸米劍道大會に参加大に爭覇を争へり。

五月廿五日、午後八時より岡田治郎會長宅に於て櫻府地方聯盟代表者會開催され、當支部より谷川、三好兩代表出席す。當日中村教士送別劍道大會開催の件を協議決定せり。

五月廿九日、桑港佛教會ホールに於て開催されたる櫻府地方聯盟主催早大劍道部寄贈優勝旗爭奪戰大會に蘆澤師範に引率されて櫻府、ルーミス、大正區三支部劍士と共に出場、好成績を擧ぐ。

六月十二日、午前十時よりアーモリーホールに於て開催された中村師範送別劍道大會に多數支部劍士出場。當日中村教師寄贈優勝旗爭奪の團體競技に於て大正區支部と覇を競ひ主將紀井野米次郎は敵主將脇田健一と戦ひしも惜敗す。

九月十四日、バカビル支部劍士十五名（内女子劍士五名）當支部に遠征し來り蘆澤師範審判の下に二軍に編成して對抗試合を爲したるも二回共當支部の勝利に歸す。兩軍の首脳と戦績は、

第一戰

バカビル軍主將	林	副將	青柳
フロリン軍主將	野澤	副將	中彌

得點 バ軍 十八。 フ軍 二十。

第二戰

バカビル軍主將	林	副將	青柳
フロリン軍主將	塚本	副將	中彌

得點 バ軍 十四。 フ軍 十五。

九月廿八日、櫻府イースタン・スター俱樂部より依頼され、同日午後九時より観客二百餘名の前で日本剣道女子剣士の試演を爲し、當支部も谷川引率のもとに選手を出場せしむ。

十月十八日、櫻府の岡田治郎會長宅に於て開催されし支部代表者會に、當支部より秋山代表出席せり。來る十一月十三日大正區亦是當地に於て中村師範歡迎會兼秋期剣道大會を開催する事、その他を協議す。

十一月十三日、午前十時より當地日本人ホールに於て櫻府地方聯盟秋期剣道大會並に中村師範歡迎大會を舉行す。當地谷川玉藏の司會によりて開始され、會長岡田治郎の歡迎の辭、サリナス地方代表横山、宮川日米支社主任、フロリン地方代表山田日本人會長等の祝辭、中村教士の訓辭、優勝刀の返還式等引續いて後、中村教士の打太刀、蘆澤師範の仕太刀にて大日本帝國剣道の形演武され、夫れより一般の試合に移りて非常なる盛會裡に終了す。各支部得點順位は櫻府

二十二、フロリン二十一、オーバン十七、バカビル十七、ルーミス十五、大正區十四、因に當支部劍士原は土つかずの勝す。

華々しき成績を擧ぐ。

一九三三年一月十日、櫻府地方聯盟會長岡田治郎宅に於て開催されし各地支部代表者會に出席、參會者廿五名。

三月十二日、午前十時より櫻府アーモリーホールに開催されし春期剣道大會は出場劍士六百、父兄並に觀衆千五百を數へて仲々の盛會、當支部劍士原初段、野澤初段は有段者試合に参加して妙技を振ひ、秋山一郎(少年部二人抜)藤井ロ一、落合繁春(同上三人抜)中彌勉(同上四人抜)五十嵐眞(同上五人抜)榎原一雄(青年部三人抜)等個人試合に優勝す。

六月四日、午前十時より大正學園ホールに於て開催されし中村教士昇格祝賀兼送別剣道大會に出席、當支部劍士五石巖(少年部三人抜)高橋まさえ(女子部四人抜)森田すゝむ(同上三人抜)野澤實(青年部五人抜)龜井一(同上四人抜)等個人試合に優勝す。尙當日野澤保は中村教士より昇段免狀を授與され二段を允許さる。

十一月十二日、アルバラドホールに於て開催されたる第二回母國武者修業團歡迎兼本部副會長中島多壽馬送別の剣道大會に出席す。當支部劍士龜井初段は有段者高點試合に優勝し、日本刀一振を獲得せり。

十一月廿六日、櫻府アーモリーホールに於て第二回母國武者修業團歸米歡迎會並に秋期剣道大會開催、出場劍士約八百、觀衆千餘。當日當支部出場劍士の戦績甚だ優秀なり。

- | | | | | | |
|-----|------|----------|-----|------|----------|
| 幼年部 | 秋山一郎 | (三人抜) | 青年部 | 山田正 | (六人抜 一等) |
| 女子部 | 高橋政子 | (五人抜 二等) | 同 | 野澤實 | (五人抜 二等) |
| 少年部 | 中彌清 | (五人抜) | 同 | 落合重春 | (四人抜 三等) |
| 同 | 山田武 | (四人抜) | 同 | 藤井智 | (三人抜) |

一月廿二日、午後七時よりエム・チャプスイに於て開催せられたる櫻府地方聯盟總會 竝に新年宴會に谷川當支部代表として出席、當日九ヶ支部参加代表五十餘名。

三月四日、午前十時よりバカビル高等學校講堂に於て開催されたる櫻府地方聯盟九ヶ支部聯合の春期大會に當支部劍士多數出場し、森田純一（少年部三人拔）山田正（青年部六人拔）喜捨場富行（幼年部三人拔）等優勝す。

四月廿九日、午後八時より當支部主催、日本人ホールに於て天長節遙拜式を舉行、一般同胞も参列す。

十一月十一日、櫻府アーモリーホールに於て舉行されし中村教士送別兼秋期劍道大會に當支部よりも左記の通り選手出場す。

幼年部

副 串

ミ

ス

青年部

主 秋山 一郎

先 三好 春子

主 山田 正

副 串 爲夫

少年部

副 中谷 清

先 紀伊野 敏春

主 山田 富夫

先 山田 武

補 森 田

副 森田 純一

補 藤 井

女子部

先 中谷 勉

主 高橋 政枝

補 喜捨場 加藤

優勝者 串 爲夫（幼年部切抜四點） 山田 末夫（同上三點） 野澤 實（有段者切抜三點）

一九三五年一月廿七日、午後四時よりエム・チャプスイに於て櫻府地方聯盟總會 竝に新年宴會開催され、春期大會の件、蘆澤師範巡回稽古日割の件その他を協議し、役員改選を行ふ。當日、谷川、秋山、龜井、野澤の四名支部代表として出席せり。

三月卅一日、午前十時よりメリスビル市の佛教會ホールに舉行されし春期大會に當支部よりも多數劍士参加出席せり。

五月五日、ローダイに開催されし樓亞武徳會竝にサンオーキン平原劍道大會に、當支部劍士臨時出場し、聯盟六ヶ團體聯合紅白優勝試合に参加せり。

八月十八日、アーモリーホールに於て午前九時より舉行されし中村教士歡 迎會 兼講談社寄贈優勝旗爭覇全米劍道大會に出席す。

十月卅日、午後八時よりエム・チャプスイに於て開催せし櫻府地方聯盟支部代表者會に出席せり。當日蘆澤師範一時歸國の件、秋期大會兼同師範送別劍道大會開催の件等を協議す。

十二月一日、午前十時よりアーモリーホールに於て開催されし蘆澤師範送別會兼秋期劍道大會に出席せり。

フロリン支部設立功勞者 谷川 玉 藏

明治七年五月廿四日、廣島縣賀茂郡志和村字奥屋に生る。同卅三年渡米、加奈陀晚香坡に上陸、同地に於て鮮漁に従事する事數ヶ月にして志を轉じ、米國に入りシアトル、桑港を経て櫻府に來り、翌年川下ウオーナツグロブに轉住して射的場、湯屋、理髮業等を兼營の傍ら農業に従事し、百卅英町のポテを耕作せしが、不幸にして失敗し、卅六年フロリンに移住、更に湯屋、撞球場、理髮等の店舗を兼營して奮闘、漸く今日の基礎を築くに至りしが、その後數年を経たる明



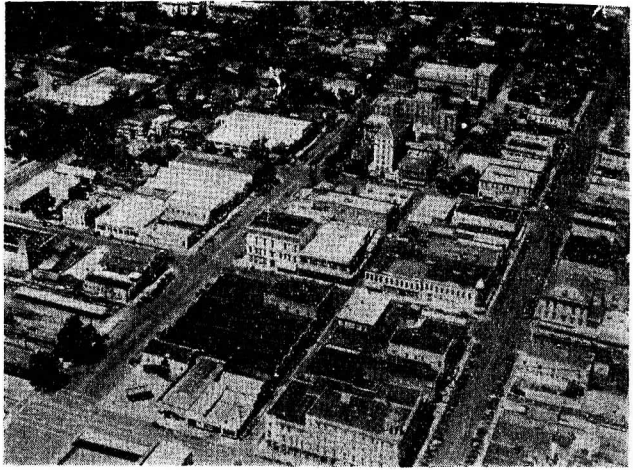
治四十四年、再び農業に着手し、フエヤオークス大和株式会社株主として果樹園經營に従事し、翌年従来の店舗を他に譲渡して一先づ妻同伴歸國、一九一四年（大正三年）再渡航後現地にて建物及び敷地を購入して、食料雜貨店を經營し現在に及べり。資質溫和にして邦人社會の評判良く、商況殷盛なり。夙に同胞發展の爲に盡瘁すること深く、一九一四年推されて不老林日本人會々長の重責を負ひ、次いで毎年會計として就任せる外、佛教會幹部、櫻府廣島縣人會副會長等を兼任して公共團體に貢献し、信望頗る高く向同地パイオニアの一人としても大に尊敬される。このほか共志會及び友備同志會の貯蓄組合を率先して設立し、會計主任となつて勤儉蓄財の實を擧ぐるに資するところ甚大、家庭は妻との間に一子昇あり、昇はイリノイ大學卒業後、更にハーバード大學に進み、都市政策を専攻し、目下母國帝都にありて官途に就き、將來大いに囑望する。(P. O. Box V. Florin, Cal.)

第七章 メリスビル支部

メ市と同胞發展

ユバー郡内のメリスビルは北加州の一都邑にして、フエザ河航路の首部に位し、ユバーシチーの右にあり、郡中の繁榮地として知られ、農産に富みその附近より各種の菜果及び牧草を産し、水陸の交通至便にしてユバー郡、サター郡その他の産物常に輻輳す。

この地に最初邦人の足跡を印したのは横濱の人石川某であるが、その年月は判明しない。次いで一八八九年（明治廿二年）鹿兒島縣人飛島某ユバシチーの附近アボットの果樹園に日本人労働者を周旋し、翌年、和歌山縣人玉置於兎四郎之れに替りしが當時已に邦人労働者七ヶ所に就働せりと云ふ。越えて一九〇二年（明治三十五年）山口縣人今井某、旅館を開業し、熊本縣人内田巳之助、洋食店を經營し、爾後商業に従事するもの次第に増加し、その後數年を経て醫師、齒科醫、旅館、料店、球



街市ルビヌリメた觀りよ空上

場、理髮店、洗濯業等各種の商鋪併せて二十六經營され、在留邦人の數百五十人に及び、果物收穫時期には千人内外の邦人労働者が來集した。メリスビル日本人會は一九〇八年（明治四十一年）の創立にして、當時會員九十六名、評議員十二